



連携室だより



Japan Community Health care Organization SENDAI MINAMI Hospital

[病院の理念]

本院は、地域社会における中核的な先進医療保健施設として、地域医療の充実と国民保健の向上に貢献します。

[病院の基本方針]

- 1.急性期医療を担う地域の中核病院として、安全かつ良質な医療を行うために適切な説明と同意に基づいたチーム医療を推進します。
- 2.地域の医療・介護福祉施設と連携を図りながら高齢者にも対応できる幅広い医療を提供します。
- 3.個人情報厳格に保護し、診療内容に関しては真実説明で対応します。
- 4.全職員が自己研鑽に励みながら一丸となって地域医療に取り組みます。



■ 院長挨拶



あさくら とおる
朝倉 徹

皆様、日本列島は大変な猛暑に見舞われており、仙台でも連日真夏日が続いておりますが、体調などお変わりはありませんか。

Covid-19による新型コロナウイルス感染症は、一旦落ち着いていたものの、都市部を中心に再流行し続けております。

日本政府は経済打撃を食い止めるため、観光産業の活性化と景気刺激を狙ってGoToトラベルキャンペーンを進めておりますが、この夏休みの帰省客は、地方住民にとって感染のクラスター発生のリスクとなる可能性があり、旅行業界含めて対応に戸惑っているようです。

さて我々医療機関は様々な感染対策を講じておりますが、まずは院内感染がクラスター発生源となることは何としても防がなくてはなりません。また外来患者や老健のデイケア利用者の方々の健康チェックも欠かせないところです。

これまではウイルスの感染診断は保健所を通じたPCR検査(主に東北大学病院が担当)のみで、一般の保険診療としては認められていないことが、最大の問題点であります。今後は保険診療の枠組みでいかに検査体制を構築していくかが、重要となります。メディアでも取り上げられましたが、仙台にある民間の研究所が、唾液検体でも検査可能なキットを開発して600~1200件/日の検査体制を取り、在京の検査会社でもPCR検査を受付け始めております。また、より簡易で迅速な抗原検査も開発され、冬場までにはインフルエンザ抗原との同時検査も可能となりそうです。

現在当院ではCovid-19感染症患者の治療は専門医がおらず出来ておりませんが、発熱などがあり、感染疑いの方を一時的に収容するための態勢は準備しております。

現在日本でもワクチンの開発や確保に力を入れているとのことですが、この秋口から冬場に間に合うとは思えません。全国での感染率の推移をみるといずれ仙台医療圏でも感染拡大する可能性が大きく、文字通り地域一体となった感染対策が必要です。

皆様も熱中症などに気を付けていただくと共にCovid-19感染症への備えをしていただければと思います。



新型コロナウイルス感染症の影響が深刻化しています。宮城県、仙台市周辺においても感染拡大が懸念されています。感染予防対策には、手洗い、換気、咳エチケット、三密（密閉、密集、密接）を避けること、不要不急の外出を避けることなどが要請されてきました。ところが外出や運動の機会が少なくなることで、運動不足や筋力低下を感じる人が急増しています。「コロナ太り」「生活不活発病」「ロコモ、フレイル」は、高齢者ばかりでなく、全ての世代の方に起こりうることです。ステイホームでも、運動の習慣を続けていくことが大切です。ここでは、自宅ですぐに始めることの出来る、道具を使わない、安全で簡単な運動を4つ紹介します。皆様の状況や身体レベルに合わせて試してみてくださいはいかがでしょうか。

① 膝伸ばし運動

膝を伸ばします。
つま先は天井に向けて。



② もも上げ運動

足を上に上げます。体が後ろに倒れないように。



③ 踵上げ運動

台に手をついて、踵を上げてつま先立ちになります。



④ スクワット

台に手をついて、膝を曲げます。おしりを後ろにおとすように。



認定看護師より

がん性疼痛看護認定看護師 菊地 葉子

普段は病棟で勤務していますが、週1回活動日に院内や附属老健のがん患者さんを中心に介入しております。

がんによる体や心の痛み・つらさを抱えながら生活している患者さんやご家族に対して、少しでも苦痛が緩和し、その人らしく生活できるよう支援しています。

このようなことでお困りのことはありませんか？

- ・ 痛みのアセスメントについて
- ・ 薬物療法について、副作用で困っている
- ・ 患者、家族指導に関して
- ・ 痛み以外の苦痛に関して
- ・ がんの痛みによって日常生活を送ることが困難になっている
- ・ がんの痛み以外のつらい症状が出現している など



お薬の使い方や生活の方法と一緒に考えたり、お話を伺ったり、同行訪問にも対応しています。金曜日に活動していますので、地域連携室を通してお気軽にご相談ください。



発行：独立行政法人 地域医療機能推進機構 仙台南病院 (JCHO 仙台南病院)

仙台市太白区中田町字前沖 143 番地 (代表) TEL 022-306-1711 FAX 022-306-1712

(地域連携室) TEL 022-306-1740 FAX 022-306-1741



